

附属校のNEWS

立命館宇治中学校・高等学校

クリスマスボウル勝利、2年ぶり3度目の日本一

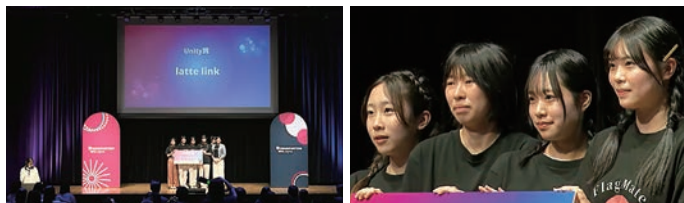
全国高校アメリカンフットボール選手権決勝「クリスマスボウル」が2023年12月24日（日）に横浜スタジアムで行われ、関西代表：立命館宇治高校アメリカンフットボール部バンサーズが19対11で関東代表：佼成学園ロータス（東京）を破り2年ぶり3度目の優勝を飾りました。試合は先取点を奪われる形でスタートしましたが、第2クォーターに自陣深くからバントリターンTDを決めて逆転し、その後もチームが一丸となり得点を追加、最後まで攻め続け、優勝を果たすことができました。関東での開催に関わらず、多くの応援団に駆けつけていただき選手たちに多くのご声援をいただき本当にありがとうございました。



立命館守山中学校・高等学校

Technovation Girls日本大会ファイナリスト選出 テクノロジーで社会を変える

次世代の女子&ジェンダーマイノリティのリーダー育成をめざす Technovation Girls世界大会の国内大会において、立命館守山高校チームが10倍の難関を突破、ファイナリスト10チームに選出されました。守山チームは、日本の学生と外国人観光客がお店でマッチングし、気軽に国際交流できる機会を提供するアプリを考案しました。世界大会出場をめざす決勝ピッチイベントは、5/25（土）、東京で開催されました。



立命館中学校・高等学校

Japan Super Science Fair 2023開催

Japan Super Science Fairは、文部科学省から指定を受けているスーパーサイエンス・ハイスクール（SSH）事業として、立命館高校が主催している国際イベントです。21回目の開催となる今回は、海外20カ国・地域より海外31校と国内12校の高校生と教員が集まっての開催となりました。2日目のポスターセッションはBKCのセントラルアークにて実施し、BKCウェルカムデー来場の一般の方にも見学いただきました。



立命館慶祥中学校・高等学校

Open European Championship Robot Design Award 世界3位！

札幌の中高生でつくるロボット競技チーム「ユキカゼ・テック・ウタリ」が国内予選を突破、5月13日（月）～17日（金）にノルウェーで開かれたOpen European Championship（ロボット競技の国際大会）で、Robot Design Award世界3位を受賞。本校からは、チームリーダーの高校1年の大隅さんと梶山さんが出場しました。



立命館小学校

田中学園立命館慶祥小学校と立命館小学校の6年生が交流

2024年6月5日（水）～7日（金）の2泊3日で、6年生宿泊体験学習（北海道）を行いました。現地の田中学園立命館慶祥小学校は、今年度で6年生までの児童が揃い、はじめて6年生同士の交流を行いました。互いの地域や学校のことを紹介し合い、大変思い出深い交流となりました。



BOOKS FOR BOOKS
～立命館の本活～

読み終えた本の買取額を寄付金として活用し、
新しい図書の購入に役立てる古本募金活動を2013年度より実施しています。

実績

361,898冊 (9,441,129円) / 7,712名

2013年4月～2024年8月

R RITSUMEIKAN

ご寄付のお礼とご報告

DONORS NEWSLETTER 2024



立命館

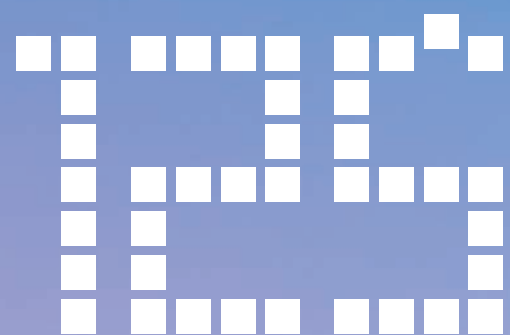
R
RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

学校法人立命館 総務部 寄付事務局

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1番地

TEL: 075-813-8110 FAX: 075-813-8119 E-mail: rgiving@st.ritsumeikan.ac.jp

Futurize.



RITSUMEIKAN ANNIVERSARY

2025年、立命館は創立125周年を迎えます。

RITSUMEIKAN FOR SOCIAL IMPACT

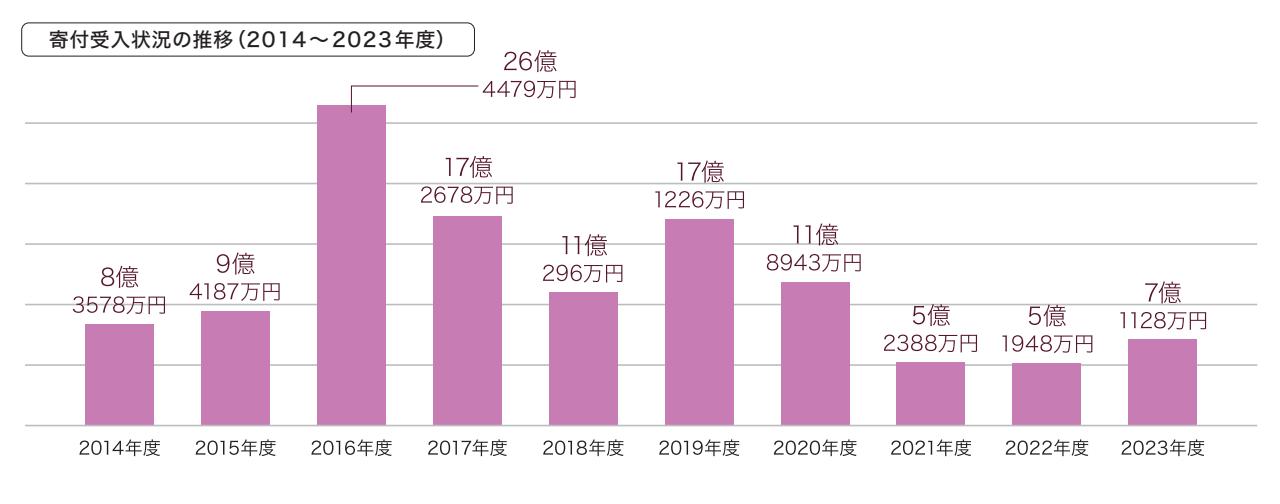
創始155年・創立125周年特設サイト
<https://www.ritsumei.ac.jp/125th/>



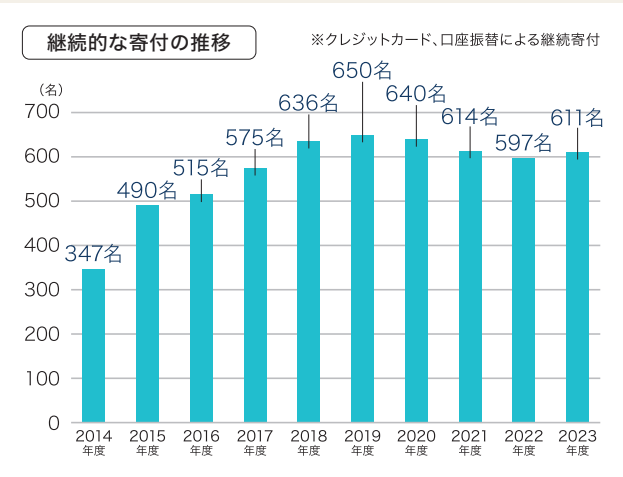
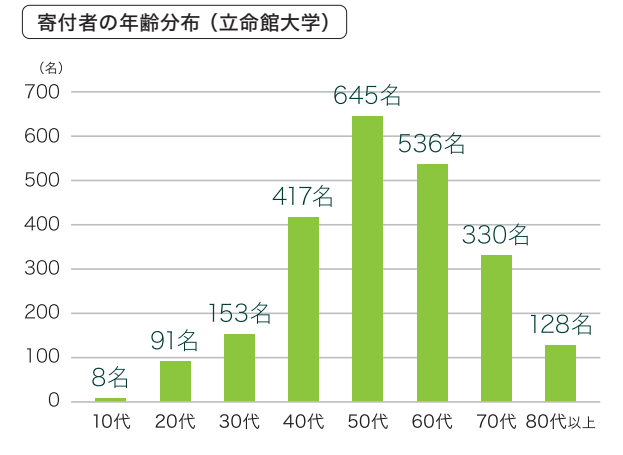
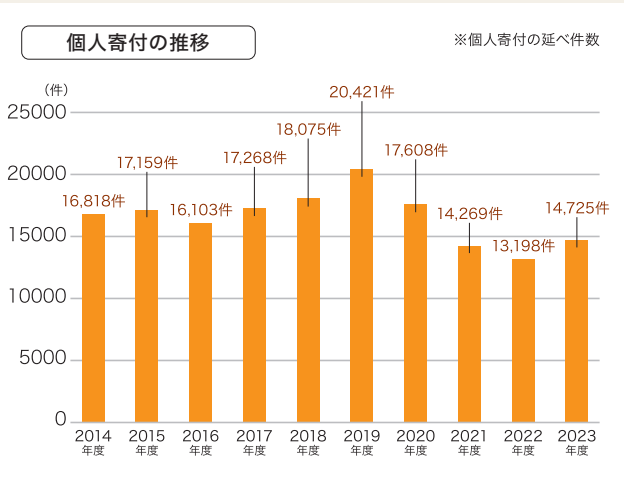
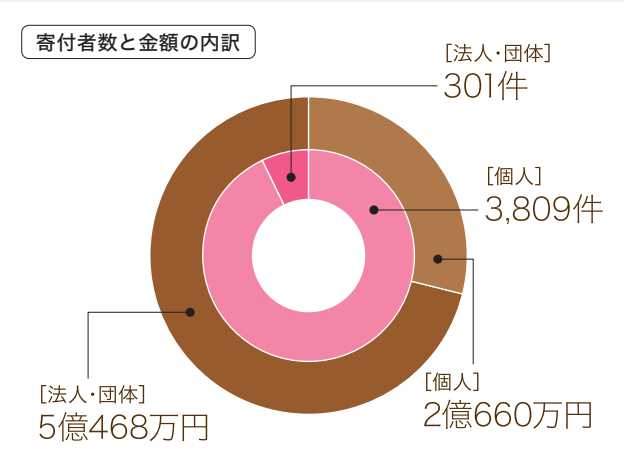
2023年度実績報告

皆様からいただきましたご支援についてご報告させていただきます。2023年度は総額約7.1億円の温かいご支援を頂戴しました。

[寄付金額の推移]



[2023年度 寄付受入状況]



立命館創始155年・創立125周年

“RITSUMEIKAN FOR SOCIAL IMPACT”

Futurize.



立命館はあらたな価値の創造と
地球規模の課題解決を通じて、未来社会を切り拓きます。

1900年、西園寺公望の秘書であった中川小十郎が
立命館大学の前身となる「私立京都法政学校」を設立してから、間もなく125年。
世界は今、戦争や紛争、環境問題、エネルギー問題など、
複雑な課題に直面しています。
予測することが難しく不安な時代であるからこそ、
失敗を恐れず、新たな事に挑戦し続ける“未来への意志”が大切です。
立命館は来るこの機に、学園を構成する学生・生徒・児童の
探究的な学びの実現を促進し、充実した教育・研究のフィールドを
発展的拡大する取り組みを、以下の5つにカテゴライズして進めてまいります。



01 教育・研究の更なる充実、高度化

衣笠キャンパスにおける、デザイン・アート学部/研究科(仮称)の
2026年度の開設をはじめ、OICでの情報理工学部と映像学部移転を
契機とした新展開“TRY FIELD”、30周年を迎えるBKCでの新たな展
開を計画しています。あわせて、イノベーション創発性人材の輩出を目
指し、大学院生への支援の充実、学部・研究科等における寄附講座設
置等を目指しています。



02 研究高度化の包括的加速

立命館大学は、他大学に先駆
けて産学連携に取り組むなど、
研究分野において常に国内私
立大学のフロントランナーと
して挑戦を続けてきました。「学
園ビジョンR2030立命館大学
チャレンジデザイン」では、「新
たな価値を創造する次世代研
究大学の創造」を掲げ、研究高
度化を包括的に加速させるべく
取り組んでいます。



03 学生生活の充実、課外活動高度化

学生アスリート支援、多様な文化・芸術活動を支える環境整備のみ
ならず、主体的に未来を切り拓こうとする学生が条件・環境によってあ
きらめることがないよう、その挑戦に必要な
リソースを提供し、成
長や目標達成をあら
ゆる面でサポートす
ることができるよう、
学生生活の充実・課
外自主活動高度化に
資する取り組みを進
めます。



写真提供/アフロスポーツ

04 立命館アジア太平洋大学 “「世界を変える」「地球を変える」プロジェクト”

立命館アジア太平洋大学は、世界100カ国・地域から人材が集まる
コミュニティです。異なる文化、異なる価値観、異なる意見を有する人
材が、対立を超えて共に新しい価値をつくりだす“共創”活動を進めて
います。地域、国籍、ジェンダー、理系・文系など既存の枠にとらわれ
ないインクルーシブな環境で、社会や地域の課題に挑戦し、世界を、地
域を変える人材育成を目指します。

05 附属校各校の教育高度化

総合学園立命館は、小学校から大学院までの一貫した教育システムを
通じて、豊かな人間性と高い倫理観、深い教養を兼ね備えた、社会の発
展に貢献できるリーダーの育成を目指しています。この共通理解に根差
しつつも、各校での個性豊かな教育をより一層推進してまいります。

学生の活躍

立命館大学には様々なバックグラウンドを持つ個性が集まり、互いに刺激し合いながら、多種多様な学生生活を営んでいます。このうちスポーツ、学術団体の中から目覚ましい成果を収めた団体、個人をいくつか紹介します。

女子陸上競技部

柳井綾音選手が パリオリンピックに出場

柳井綾音選手（食マネジメント学部3回生）が男女混合競歩リレーの日本代表として出場、計42.195kmのうち、2区と4区の各10kmを担当しました。柳井選手のペアは13位となり、メダル獲得、入賞には届きませんでしたが、唯一の現役立命館学生からの出場選手として、その活躍が我々に大きな勇気を与えてくれました。



写真提供／月刊陸上競技

山本亜美選手が第108回日本陸上競技選手権大会 400m ハードルで4連覇を達成

2024年6月27日（木）～30日（日）、「第108回日本陸上競技選手権大会」がデンカビッグスワンスタジアム（新潟県）で行われました。女子陸上競技部からは女子400mハードルで山本亜美選手（スポーツ健康科学部4回生）が出場、56秒60のタイムで見事優勝、入学以降続けた連続優勝記録を4連覇に伸ばしました。



写真提供／月刊陸上競技

ホッケー部（男子・女子）

第43回全日本大学ホッケー王座決定戦で 初のアベック優勝を飾る

2024年6月27日（木）～6月30日（日）、川崎重工ホッケースタジアムにて「第43回全日本大学ホッケー王座決定戦」が開催。ホッケー部（男子）とホッケー部（女子）が共に頂点に立ち、大会史上2校目、立命館大学では史上初のアベック優勝に輝きました。



応援団吹奏楽部

「第71回全日本吹奏楽コンクール」で 悲願の金賞を受賞

2023年10月28日（土）、宇都宮市文化会館で開催された「第71回全日本吹奏楽コンクール」（全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社主催）大学の部に、立命館大学応援団吹奏楽部が出場。13年ぶりの全国大会で本学史上初の金賞を受賞しました。



将棋研究会

学生王将戦で速水秀馬さんが優勝 学生王座戦でも団体準優勝に輝く

2023年12月25日（月）、四日市商工会議所にて「第52回全日本学生将棋十傑戦（学生王将戦）」が開催。将棋研究会の速水秀馬さん（情報理工学部3回生）が優勝を飾りました。また、同年12月26日（火）～28日（木）の3日間にかけて、四日市市文化会館で「第54回全日本学生将棋団体対抗戦（学生王座戦）」が開かれ、立命館大学将棋研究会が準優勝を果たしました。

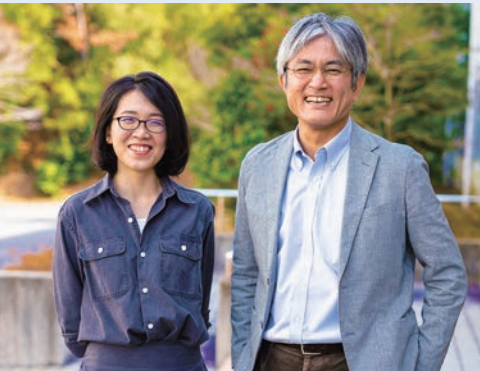


未来を切り拓く研究者

立命館大学初となる科研費・学術変革領域研究（A）での領域代表に採択 中川毅教授（RARAフェロー）による研究課題『「暴れる気候」と人類の過去・現在・未来』が 2024年春より開始

立命館大学古気候学研究センター長 中川毅教授が、2024年度科研費 学術変革領域研究（A）『「暴れる気候」と人類の過去・現在・未来』において、立命館大学では初となる領域代表に採択されました。また、同副センター長の北場育子准教授も、本研究課題の計画研究代表に採択されました。

気候には、一方向に変化する「気候変動」とも、極端な事態が稀に発生する「異常気象」とも違う、第三のモード、極端な事態が日常的に発生し、もはや異常とも呼べなくなるモードが存在します。本研究では、この第三のモードを「暴れる気候」と名付け、①それが過去においてどのようなときに発生してきたのか、②発生メカニズムはどのようなものか、③人類や生態系にどのような影響を与えるのか、④どのような対応策があり得るのかについて、国内外の研究機関と協働し、包括的に研究を行います。



長谷川知子教授が、5年連続で科学・社会科学分野における世界最高峰の研究者 「高被引用論文著者」に選出



総合科学技術研究機構の長谷川知子教授（発表当時は理工学部准教授）が、クラリベイト・アナリティクス社が発表した2023年度の高被引用論文著者（Highly Cited Researchers 2023）に選出されました。5年連続となります。

高被引用論文著者は、特定出版年・特定分野における世界の全論文のうち引用された回数が上位1%に入る論文を発表し、後続の研究に大きな影響を与えた研究者が選ばれるものです。

長谷川教授は、エネルギー、経済、農業、土地利用、水利用などを統合的に解析する統合評価モデルを用いて、気候変動を中心とした地球環境問題に関連する研究を行っています。とりわけ、将来の温室効果ガスの排出量を見通し、その削減方策の検討、気候変動による影響の経済的分析などに取り組んでいます。

長谷川教授は、その活躍を評価され、国立研究開発法人科学技術振興機構から発表された「輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）」、内閣府男女共同参画局「令和6年度女性のチャレンジ賞特別部門賞」など、多くの賞を受賞しています。

立命館大学宇宙地球探査研究センター（ESEC）設立記念シンポジウムを開催

2024年5月23日（木）、朱雀キャンパスにおいて、立命館大学宇宙地球探査研究センター（ESEC）設立を記念したシンポジウムが開催されました。当日は二部制で行われ、第一部では、日本初の月面着陸に成功した小型月着陸実証機「SLIM」に搭載した「マルチバンド分光カメラ（MBC）」の開発に携わったESECセンター長の佐伯和人教授、長岡央准教授、仲内悠祐助教から、着陸成功直後の秘話や今後の月探査展望についての説明、続いて、ESEC副センター長の小林泰三教授、加古川篤准教授から、目指す生存圏拡大に必須となる建設およびロボティクス技術についての研究紹介が行われました。第二部では、野口聡一学長特別補佐からのスペシャルトークが有り、特に次世代を担う層へ向けた熱いメッセージが届けられました。その後のパネルセッションは、「宇宙生活における叡智（wisdom）～宇宙に生きる時代を迎えて～」と題して行われ、野口学長特別補佐、佐伯センター長に加えて、総合心理学部のサトウタツヤ教授、鈴木華子准教授が参加し、心理学も含む様々な視点から月や惑星への生存圏拡大などについて、活発なディスカッションを繰り広げました。

